

ときめき人

Tokimeki bito



人がよろこぶ 思いやりの心を 中高生に伝えたい

迫町・駒木

千葉 和彦さん

ちば かずひこ
1954年生まれ 血液型/A型

Profile

石巻市立大川中、東松島市立矢本第一中、米山中元校長。東松島市立矢本第一中在職中に東日本大震災に遭遇、1200人の避難者を受け入れた。現在は豊里小中学校に勤務。趣味は剣道。



現在、第2期生を募集中。誰もが入塾できます。ぜひあなたの力を貸してください。「登米耕人塾」ホームページ <https://tome-koujinjyuku.jp/>

登米地域の中高生の「人間力」を磨き、地域や社会に貢献する人材を育成することを目的に開設した「登米耕人塾」が、今年度、2期目を迎えた。

震災の翌年、「子どもたちに夢を与えたい」という思いのもと石巻市で活動を開始した「石巻耕人塾」。この運営に携わった千葉さんが中心になり、活動の輪を広げるべく、スタッフとの話し合いを重ねた。塾の立ち上げにあたり、資金面などで苦労があったが、活動拠点となる施設の減免制度を利用したり、事業所や団体などからの支援に助けられながら、開設に向けて頑張ってきた。石巻耕人塾の創設者である木村民雄塾長から人を育てることへの指導を受けながら、機が熟した登米耕人塾はスタートを切った。

待望の第1期は市内中高生29人が参加。塾生は登米市の課題に向き合い議論したり、実践活動として迫町内でごみ拾いの社会貢献活動を主体的に行った。「塾生が、講師の話を目と耳で聞いて自分を高めようと真剣に考える姿に接したとき、やってよかったと感じた」と振り返る千葉さんは「忘己利他」他者の幸せのために尽力するという気持ちを大切にしていけば、人間にとって一番大切なのは何か見えてきます。その心を大切にしながら世界に誇れる登米地域づくりを皆さんと考えていきたい」と続ける。

塾で学び巣立っていく塾生たちが地域を担う人材に育っていくことを願い、耕人塾はこれからも活動を通して思いを発信していく。

編集後記

▼4月より広報係に異動してきました。見やすい、わかりやすく登米市の魅力を伝えられるような広報づくりを目指していきます。カメラの扱い方、広報制作についてはまだまだ未熟ですが、日々学習して明るく元気に頑張っていきます。どこかでお会いした際にはお話ししましょう。(白石)

▼広報係に配属になって、毎日ちむどんどんしています。よりよい広報づくりのため「広聴」活動に奔走していきたく思います。カメラを携えた物腰穏やかなメガネのおじさん、長身で血色不良のおばちゃん、切れ長の目をした元気なお兄さんを見かけたら気軽に声をかけてください。(渡邊)

▼今月号は、新体制になって初めて制作した広報紙です。担当者が代わっても、見やすさ、読みやすさ、伝わりやすさに心掛けた編集方針は変わりません。市の魅力、価値、エネルギーをしっかりと伝え、このまちをまた好きになる紙面づくりに努めます。(佐々木)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>

